



寒川赤十字奉仕団 手つなぎ防災ひろば(5年生)

19日(火)5年生は、日本赤十字愛媛県支部の方を講師にお招きして、赤十字奉仕団寒川支部、寒川地区社会福祉協議会、四国中央市消防署員、保護者の方々のお手伝いをいただき、「手つなぎ防災ひろば」を実施しました。寒川地域の大きな不安である土砂災害の講話や非常食体験、応急処置の仕方、煙体験、消火器による初期消火体験などで学びを深めました。講話では「命を守り、暮らしをつなぐ」ために平時からできることを教えていただきました。中でも、避難生活では、トイレがいかに重要になってくるかがよく分かりました。トイレ対策はおうちですぐにでも備えておくべき重要なものだと、子どもたちに伝えてくれました。また、限られた水しかないときのご飯の炊き方、怪我をしたときの応急手当の仕方なども体験したことで、一人一人が命を守るための知識とスキルを向上させることができました。「災害時には想定していないことはできない」と最近よく耳にしますが、本日の学びは、子どもたちにとって極めて高い確率で遭遇する南海トラフ地震への大きな備えとなったことと思います。貴重な学びの場を提供してくださった皆様、ご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。



ぼうさい国体くまもと(10/19・20)

本校で防災教育をリードしてきた星野俊彦先生が熊本県で開催された第9回防災推進国民大会で本校のこれまでの取組について「学校・家庭・地域が連携した防災教育の実践」のテーマでステージ発表を行いました。

全国各地で防災・減災を推進している方々からも本校の取組は大変称賛され、参考にしたいというお声や更なるアドバイスもいただき、ますます防災教育のつながりは広がりそうです。これらの取組が広がり、将来的に本校の子どもたちの大切な命、日本中のたくさんの人の大切な命を守る方向へと進んでいくこととうれしく思います。



ぼうさいこくたい

四国中央市南海トラフ地震を見据えたBCPシンポジウム(11/7)

この夏1週間にわたって出された「南海トラフ地震臨時情報」。初めて「巨大地震注意」が発表され、これをきっかけに各地で改めてクローズアップされているのが、BCP(事業継続計画)＝「大災害があった場合、どうすれば事業を止めずに素早く再開できるのか」です。四国中央市でも就学前(保育園・幼稚園)の先生方が中心となって、その備えへの意識が高まっています。いつから保育・教育は再開できるのか、どのように市民の生活を継続していくかについて、専門家、市担当課、インフラ関係者(四国電力・水道局)・教育関係者が集まってシンポジウムが行われました。教育現場の代表で星野先生もパネリストとして参加しました。四国中央市の気運も高まっています。家庭でもしっかり備えてまいりましょう。

